



■ 妊娠診断薬

妊 娠 診 断 薬

当院は、産科専門病院として妊婦さんの日々の健康状態を尿中蛋白、糖などの検査にてチェックし、体重の急激な増加や減少があった場合は、保健指導で日常生活の行動パターンを洗い直し、原因となるような事柄が考えられるようなら、それらを改善し満期産まで元気な赤ちゃんと母体をしっかり見守っていくことを是として診療にあたっている病院です。

さて、現在では妊娠したのか、あるいは、ただ単なる生理の遅れなのかと思われた場合、市販されている妊娠診断薬を購入して自分で検査し、陽性(妊娠の可能性あり)となったときに初めて、医療機関へ診察に行くケースが多いと思われます。

本日のテーマである妊娠診断薬ですが、妊娠診断薬が薬局で市販される以前は、2回目の生理が来ない頃になって妊娠の可能性を考慮して医療機関に行かれたと思います。また、その頃には「つわり」も現れる頃なので症状のある女性では大体見当がつかず。現在では超音波診断検査もあるため子宮内の胎囊を見ることができ、妊娠診断技術は格段に進歩しました。



では、妊娠診断薬が誕生するまでは、どのように妊娠を診断していたのでしょうか。それは生物学的診断法を使用していたのです。現在の妊娠診断薬は免疫学的診断法といいます。この違いは、生物学的診断法では、生きた動物を使って妊娠反応を診断していたところにあります。これは40年くらい前のことです。

初めは何とカエルを使用していました。次にもっと感度の良い方法としてフリードマン法(人の名前で検査方法を開発した人)というウサギを使用して妊娠の有無を見ていたのです。ヒトの尿をウサギに注射して1週間後にウサギの卵巣を確認して診断を下していました。その当時は検査技師もウサギも苛酷で妊娠診断を確定するには容易なことではなかったのです。その点、現在では何と容易に妊娠診断が出来るようになったのでしょうか。このことは、正常妊娠、異常妊娠を含めて全女性に大きな福音をもたらしました。医学の進歩には驚くと同時に人類に大きな利益と幸福をもたらすことも改めて認識させてくれます。

要は案ずるよりも産むが易いですか。

担当: 検査課